

窓口には透明ディスプレイ ～声を見える化

みなさんのスマートフォンにもインストールされている方も多いと思いますが、音声を文字に変換して可視化できるアプリ「UDトーク」が市役所の窓口でも活躍しています。

アプリがインストールされたタブレット端末（iPad）と文字を表示させるための透明ディスプレイ「レルクリア」を接続し、新庁舎の市民課（1階）、高齢介護課（2階）、障がい福祉課（3階）に設置しています。職員の説明などの音声をリアルタイムで文字表示することができます。

来庁者が透明ディスプレイに映し出されたUDトークで変換された文字を読みな



がら、職員の表情も確認しつつ対面でやり取りすることができるようになっており、聞こえにくい方が来庁された際に活用されています。アプリは日本語だけではなく多言語に対応しているため、外国語で相談される方にも利用されるなど窓口対応の充実が図られています。

これらは新しい機器ですのでご存じない方も多いので、市役所玄関部のデジタルサイネージなどで周知に努めています。

▶市役所玄関のデジタルサイネージ(電子掲示板)



議会にも 最新技術の モニターやループ

市議会では一般質問の発言内容が、議場内のモニターにリアルタイムで表示されるAI音声認識システムや傍聴席へのヒアリングループ設置など、聴覚に障がいのある方が安心して議会に参画できる機会への取り組みが行われています。



4月から職員が充実

新しい庁舎への移転を機に天井裏にアンテナを配置したヒアリングループシステムを常設した会議室が設けられ、市民を対象としたきこえや補聴器に関する学習会などで利用されています。

また、4月には手話通訳者が1名異動で増えて、障がい福祉課には手話通訳者が3名となり、窓口対応がさらに充実しています。
(でんでん虫・有野)

北から南から サークル紹介

ろうの方との学習やトークを大切に



宇治手話サークル太陽

宇治手話サークル太陽は1985年9月20日設立。来年創立40周年を迎えます。会員56名。毎週水曜の午前、ろう協の方々と共に市総合福祉会館で活動しています。最近、久しぶりに男性会員3名の加入があり、新しい風を起こして欲しいと期待しています。



例会では、ろう者の皆さんと一緒に学習したり、フリートークで交流を深めています。昨年度から、内容や方法をお任せして、ろう者の方に学習を企画して進めていただく時間を作っています。難しい時もありますが、目新しくもあり、楽しい時間です。

1年を通して、交流会や社会見学の行事をしています。昨年は東寺を見学した後、京都駅で全員で食事をしました。

また、太陽には盲ろうの方が来られていますので、皆で盲ろうについて学び、触手話体験をして、誰もが盲ろうの方としゃべれるようになればいいと考えています。

今年度は7月から福祉会館の改修工事が予定されており、工事の間、会館が使えません。近隣の生涯学習センター等を借りて活動することになります。ほとんどが有料のため、いつも無料で使用できていることのありがたさを痛感しています。会員には若干の負担をお願いしています。それでも毎週活動するのは難しいかもしれませんが、創意工夫して楽しいサークル活動にしたいと思っています。(前田)

北から南から

初の「ヒトバ」に参加

京都市手話学習会「みみずく」西京支部 サンシャイン、洛西手話サークルたけのこ

3月24日(日)「ヒトバ」が、阪急電車高架下(洛西口駅と桂駅の間)にある「トートひろば」にて開催されました。

「ヒトバ」って何? これは「kyotoこころつながるプロジェクト」で多様性を尊重し全ての方が安心して暮らせる地域づくりを目指すに基き、京都市西京区の、人(ヒト)と場(バ)のつながりをテーマにしたイベントです。

区社協さんからの声がけで、聴覚、視覚、児童館、障害児などに関わる西京区ボランティアグループ連絡会に加入するサークルが参加。みみずく会、サンシャイン、たけのこ手話サークルは、聴障協西京支部の協力をいただき、手話体験コーナーを運営しました。

当日はあいにく朝からの雨で肌寒かったので



すが、なんと親子など84人も立ち寄ってくださいました。「保育園で手話歌やったことある」、名前の表し方を手話で教えてもらい「思ったより簡単だった」。「昔、学校の総合学習で習ったことある」という母親、「TVドラマで手話を見た」。